

令和 7年 10月 22日

南箕輪村議会議長 様

提出者名 西森一博

議員研修・議員視察結果報告書

研修名または視察テーマ	石川県能登町視察
研修・視察実施場所	石川県能登町
研修・視察の期間	令和7年10月20日～22日 3日間
研修・視察の成果等	<p>令和 6 年度社会福祉大会での多田様（春蘭の里）、竹中様（日本海俱楽部）、浜田様（能登町社会福祉協議会）の講演に感銘を受け、能登町の被災状況と講演頂いた方々の施設へ訪問して講演会で話されていた各種取り組みを現地で視察しました。</p> <p>1. 能登町社会福祉協議会</p> <p>令和 6 年能登半島地震におけるボランティアセンターの立ち上げから運営までの状況について。</p> <p>現状と課題：社協が入る施設は、令和元年に町の支所などとの複合施設として新築された建物であったが、発災時に内装の天井が落ちるなどの被害を受け、復旧に時間を要する状態であった。</p> <p>ボランティアセンターの立ち上げ訓練は実施していたものの、地域住民との連携が不十分であったことなどから、発災から 26 日後にボランティアセンターを開設するに至った経緯について説明を受けた。ボランティア活動を行うためには建物の安全調査が必要となるが、建築士などの専門家が不足しており、調査判断が困難であったことが課題であると話していただいた。</p> <p>ボランティアセンターの立ち上げ訓練において</p>

は、地域住民の参加が不可欠であること。被災建築物の調査判断を迅速に行うための基準づくりや専門家との連携体制の構築が、今後の災害対応において極めて重要であると考える。

2. 日本海俱楽部

社会福祉法人佛子園が運営するレストランで、障がい者が地ビール製造や野菜栽培、レストランでの提供、食品加工品の販売に携わっている。

障がい者就労支援施設の工賃アップと運営に関する佛子園の取り組みとして、障がい者支援施設での商業活動が認められていることを活かし、長期保存可能な食品加工品を製造し、独自販売に加え民間業者との連携による販売強化で利益を確保し、工賃アップを目指している。

また、地域住民が日常的に集まる複合施設（銭湯や運動施設など）を作り、そこで障がい者が働くことで、障がいのある人もない人も共に暮らす「ごちゃまぜ」の環境を創出することが重要であるとの説明を受けた。施設建設だけでなく、運営を担う人材、特にリーダーとなる人材の育成に力を入れている。

当村には、このような「ごちゃまぜ」となって集まれる常設の施設がない。地域共生社会の実現に向け、障がい者が地域の一員として働き、交流できる多機能な施設の必要性が高いと考える。

3. 春蘭の里

創業者の多田様より、事業の経緯と震災対応についてお話を伺った。

山間部に位置し、下水道や公共水道に頼らず、湧き水の利用や小水力発電による自家発電など、インフラに依存しない施設づくりを実践している。廃校となった学校を改修し、宿泊施設として活用している。震災で公共インフラが停止した際にも、独自のインフラ体制によりわずか4日間で復旧し、地域の方々を積極的に受け入れた。

現在では農家民泊を手掛けており、能登町だけでなく輪島市など近隣地域に50箇所に及ぶ民泊の

拠点ネットワークを構築し、県外や海外から多くの観光客を受け入れている。施設では水素による発電施設も稼働し、復興工事の作業員の宿泊所としても利用されている。

独自のインフラを持つことで、災害時における高い回復力を発揮した事例として、今後の地域づくりにおける教訓となる。

今回訪問した全ての施設で、震災時に長野県からの支援に大変感謝されている様子が強く印象に残りました。「お互い様」という言葉があるように、非常時における地域や県境を越えた助け合いの大切さを改めて痛感した視察となりました。

※研修・視察終了後、議長または委員長が定めた期日までに提出すること。